

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		アイリライフ学習特化型		公表日		2026年 3月 2日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	2	限られたスペースの中で、活動内容に応じたエリア分けや少人数でのグループ活動を行い、安全かつ落ち着いて過ごせる環境作りを工夫しています。	現在の利用人数において支援は実施できていますが、より落ち着いて過ごせる環境づくりのため、個別スペースの確保やレイアウトの工夫が今後の課題と考えています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	0				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	7	建物は完全なバリアフリーではありませんが、安全確保のための見守りや動線確保、環境整備を行い、安心して過ごせるよう配慮しています。	現在は大きな支障はありませんが、今後の利用児童の状況に応じてより安全性を高める環境整備について検討していく事が課題です。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	3	日々の清掃や整理整頓を徹底し、活動内容に応じてレイアウトを工夫することで、清潔で心地よく過ごせる環境づくりに努めています。	活動内容や利用状況によっては空間に余裕がなくなるため、引き続きレイアウトや環境整備の見直し、より快適に過ごせる環境づくりを進めていきます。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	5	専用の個別室は限られていますが、パーティションなどを活用し必要に応じて空間を区切るなど、落ち着いて過ごせる環境を確保できるよう工夫しています。	個別対応が重なる場合には空間確保に課題があるため、レイアウトや時間調整の工夫を重ね、より安定して個別スペースを確保できるよう改善を検討していきます。		
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	定期的な職員会議や日々の振り返りを通して課題を共有し、支援内容の見直しや改善に職員が参画できる体制づくりに努めています。	一部の職員に偏らないよう、より多くの職員が参画できる仕組みづくりと、改善内容の共有方法の充実が今後の課題です。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	4	第三者評価の機会は限られていますが、行政指導や関係機関からの助言、保護者アンケートなどの外部意見を業務改善に活かすよう努めています。	今後は第三者による客観的な評価の機会を検討し、より透明性のある運営と継続的な業務改善に繋げていくことが課題です。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0				
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0					
12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0					
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0					
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0					
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0					